

車両の空気力学的性能に影響する車両の他のすべての特定の部分は、本条文に関連する規定を遵守していなければならない。例えば、前部ウイング末端の板状部（翼端部）は、柔軟であってはならず、かつ 1 枚の平板であっても空気力学的性能に影響を及ぼすいかなる部品も追加することを禁止する。

車両の空気力学的影響を有する特定の部分は：

- 車体に関する規則に合致していなくてはならず、
- 車体の主要部分に完全に取り付けられていなくてはならず（しっかりと取り付けられるとは、固定されていない部分があってはならないという意味である。）
- 車体の突出部と固定されていないとてはならない。

車両の主要部と地表との間隙を連結するいかなる装置あるいは構造体は、あらゆる状況下でも禁止される。

いかなる状況下にあっても本条によって規定される表面によって生ずる幾何学平面より下部に位置してはならない。

## 2.7) ウイング

フロントおよびリアウイングは **2 枚以下** で構成され **3 枚** 以上で構成することは禁止する。なお、ウイングの形状は前方および上方から見て長方形であり、全域にわたって同一断面形状を維持しなくてはならない。

各ウイングにガーニーフラップの取り付けが許されるが、外形形状は平板であれば自由、ただし同一断面形状をなすウイングの後端から前後 30 mm 範囲に限り許される。このガーニーフラップとウイングとの間に隙間を開けてはならない。

各ウイングには平板の翼端板を設ける事ができる。フロントウイングの翼端板の全ての角度（上側、下側共）には車両側方から見て、最小半径 35 mm の R を **付けなければならない**。また、平板の周囲は、半径 5 mm 以上の円弧の断面形状を持つこととする。この R 形状を形作る範囲は平板とならなくてもよい。

フロントウイングの翼端板と車体を結ぶステーをウイングと平行に設けることができる。ただし、このステーは直線で、その断面形状は真円に限る。また、車両の前方、上方から見て車両の左右のステーは直線に配置されなければならない。リアウイングの翼端板と車体を結ぶステーをウイングと平行に設けることができる。ただし、このステーは直線でその位置はリアホイールセンターよ